

**第 65 回・歴史教育者協議会全国大会（大阪大会）レポート
第 2 1 分科会（障がい児教育）**

**レポート名： 「光明学校の学童疎開」
—光明創立 8 0 周年記念講演会の取り組み報告—**

日時：2013 年 8 月 3 日（土）～8 月 4 日（日）

場所：関西大学千里山キャンパス（大阪府吹田市）



上山田ホテルに学童疎開中の光明学校の訓練風景

**報告者：竹下 忠彦
東京都立府中けやきの森学園
（東京都歴史教育者協議会・町田支部）**

I) はじめに

東京都立光明（こうめい）特別支援学校は、昨年（2012年）創立80周年を迎えた。母校の創立80周年を祝い、同窓会（仰光会）は「光明創立80周年記念講演会」を開催した。この講演会のテーマが「光明特別支援学校の歴史に学ぶ ―学童疎開―」となり、光明の学童疎開を研究・調査している、元光明教員の松本昌介氏と報告者竹下に準備が任されたため、今回この2名が企画の中心になり準備を行った。

本報告では、2012年12月1日に代々木オリンピック記念センターで行われた「光明創立80周年記念講演会」の内容を当日配布された資料を基に報告する。

II) 本論

講演会の主な内容

- ①DVD「信濃路はるか」観賞
- ②光明卒業生（17期生）Xさんの学童疎開に関する話（資料）
- ③光明卒業生（10期生）Yさんの学童疎開に関する話（資料）
- ④上山田ホテル・現女将の話
- ⑤松本昌介氏のまとめの話（資料）

当日配布資料について

- ⑥光明学校の学童疎開（竹下作成）（資料・パワーポイント）
- ⑦過去の疎開に関する新聞記事（資料）

III) まとめ

- ・当日の様子と反響（小学生新聞記事参照）
- ・障害児学校の学童疎開を記録し、語り継ぐ意義。

光明80周年記念講演会資料

(X=) F.Nさん(光明学校17期生)

【略歴】

昭和14年(1939年)1月20日 文京区千駄木生まれ

昭和20年4月 空襲に遭い、新宿(当時)の家が焼失

昭和20年5月 世田谷区立北沢国民学校に入学

昭和20年7月 東京都世田谷区(東京市立)光明国民学校に編入(小1)

学童疎開(上山田ホテル)に参加

昭和21年8月ごろ 光明国民学校(小2)光明国民学校在籍のまま東京に戻る。

昭和22年4月 義務制施行により、東京都立光明小学校・中学校になる。

昭和27年3月 東京都立光明小学校卒業(1年休学し7年間在籍)

昭和27年4月 東京都立光明中学校入学

昭和30年4月 東京都立光明中学校卒業

①生まれてから光明に入学するまでの経緯

(昭和14年から昭和20年7月まで)

*生まれは、文京区千駄木

*2~3歳のころ、渋谷区幡ヶ谷に転居した。

*昭和20年4月、新宿(当時)の家が空襲に遭い被災。世田谷区北沢に転居。

*昭和20年5月に世田谷区立北沢国民学校に入学した。

*同年7月、北沢国民学校の校長先生の紹介で、光明国民学校に編入。上山田ホテルでの学童疎開に参加する。

②学童疎開時代

(昭和20年7月から昭和20年8月ごろ(小1から小2))まで

*母と一緒に鉄道(信越線)で上山田ホテルに向かう。

*上山田ホテルでの学童疎開の記憶、印象

楽しかったこと 勉強はどんなことをしたか 食べ物は

*エピソード

12月にコタツに入っていて、「一酸化炭素中毒?」になる。

その後、身体の状態が不調になり、ホテル内で静養する。

母が迎えに来て、東京に戻ったのは、昭和20年8月ころか。

盆踊りをしている頃だった記憶がある。帰りは木炭車のタクシーで東京まで戻った。

③光明中学校を卒業するまで

*エピソード

光明80周年記念講演会資料

(Y=) A・Tさん(光明学校10期生)

【略歴】

昭和7年(1932年)11月7日 浅草区生まれ 生後半年で、ポリオに罹患する

昭和13年4月 浅草区立柳北小学校入学

昭和14年4月 東京市立光明学校(麻布)に編入(小2)

昭和17年4月 国民学校令により、東京市立光明国民学校になる。

昭和19年9月 麻布分校閉校に伴い、光明国民学校(世田谷本校)に編入
(小6)(現地疎開に参加)

昭和20年2月25日(または3月10日未明)

浅草橋の自宅が空襲に遭う

昭和20年3月 光明国民学校卒業

昭和20年4月 光明国民学校高等科へ進学

昭和20年5月 高等科1年生として、学童疎開(上山田ホテル)に参加

昭和20年11月 光明国民学校高等科退学。東京に戻る(芝浦に転居)。

①生まれてから光明に入学するまでの経緯

昭和7年から昭和14年3月(小1まで)

*生まれは、浅草区向柳原。

*生後6ヶ月でポリオに罹患(医者は、「脳性脚気」と診断した)

—ポリオと分かったのは光明に入学してから。

*障害者のおかれた状況

—浅草橋では、街のこどもたちの仲間に入って遊ぶことができた。

*小学校は浅草区立柳北小学校に入学。

*小学校1年の担任は、A・Tさんが光明に転校すると聞き、「めくらの学校に行くのか」と言った。

*エピソード

②光明(麻布)に編入して

(昭和14年4月から昭和19年7月まで(小2から小6))

*小2で光明学校に編入する。麻布の校舎。

*同期生(同級生)のこと

*通学方法

*エピソード

③世田谷の本校に移って（現地疎開）

（昭和 19 年 9 月から昭和 20 年 5 月まで）

- *現地疎開の始まった本校（世田谷）で小 6 の後半を過ごす。寄宿舎に入った。
- *麻布から移って行った同期生は、秋山、尾関の 2 人のみ。
- *現地疎開当時のエピソード
- *空襲で浅草橋の自宅が焼けた。（昭和 20 年 2 月末から 3 月）
- *20 年 3 月に国民学校卒業。4 月に高等科進学した。

④上山田ホテル学童疎開に参加して

（昭和 20 年 5 月から同年 11 月まで）

- *5 月 25 日、上山田ホテルに向かう。
- *上山田の疎開生活でのエピソード
- *11 月に東京に戻るようになった。（当時の自宅は芝浦）。
- *旧制竹芝商工学校電気通信科に編入する。

2012年12月1日

オリンピックセンター

光明学校の学童疎開

松本昌介

1. 光明学校

1932年に麻布に開校。

- ・開校には整形外科医の関わりが大きい。

高木憲次 夢の楽園教療所の説

田代義徳 東京市会議員として 学校建設に尽力

竹沢さだめ ドイツ、クリュッペルハイムに学んで 光明学校初代整形外科校医

- ・教育は大正自由教育の影響

校長は成城小学校、身体虚弱児教育経験の結城捨次郎 教育方針は成城小学校に学んだ。

児童教養上の信条 1. 子供も神の子 2. 子供第一 3. 叱るより褒めよ 4. 短所を
いわず長所を伸ばせ 5. 児童疲労の考慮

教育綱領 1. 即個性の教育 2. 性能の発見と伸長 3. 体験の教育 4. 実用の教育

5. 円満なる情操教育 6. 自立労作教育

各教科も必ずしも小学校令に忠実ではなく、成城小学校の工夫に学んでいるものが多い。

これらの教育理念は時の風潮の中で徐々に崩れていくのだが、その精神は底流に流れて
いた。

- ・医療は整形外科医の指導の下、太陽灯など最新の医療機器を導入し、看護婦も4人、各教室で児童の健康管理、特設治療時間での治療など、最新の体制であった。

1939年に現在の世田谷区松原に移転 麻布校舎は老朽校舎を少し修理しただけのも
のだったので、当初から使い勝手も悪く、新校舎を要望していた。後援会で寄附、事業など
をして得た基金2万円を東京市に寄贈した。転居したりして学校近くに住んでいる児童も
多く、麻布校舎を分校とした。

2. 学童疎開

① 昭和19年7月に学校と寄宿舎を利用して集団疎開が始まった。

光明学校は「その収容児童及び経営の特殊性により」「戦時疎開学園に準じ全児童を本校
に於いて合宿により国民学校教育及び養護を行うことに方針決定」

つまり東京を離れず本校で泊まり込むという方針 この段階で東京都から見離された。

校庭に防空壕を作り、治療機器も用意した。小田急線を通っていた児童もいたが、電車が
爆撃されて通学できなくなり、疎開に加わった。

3月10日の東京大空襲は防空壕から眺めた。空が真っ赤だった。世田谷も危ないと校長
は疎開地探しに出かけた。

②. 5月15日に長野県上山田温泉上山田ホテルに全校疎開をした。

上山田ホテル社長は村長だった。豊島区の疎開が奥地に再疎開して空いていたので、義侠心を出して引き受けてくれた。疎開10日後に校舎が焼けた。あと数日遅かったら犠牲者も出たかもしれない。

戦争が終わり、上山田の各ホテルにいた豊島区の疎開は東京に引き揚げたが、校舎を焼かれた光明学校は帰れない。居座ること4年、疎開最長記録を作った。現地入学の子も。

勉強、治療(機能訓練)は部屋で。歩行訓練として殆ど毎日町へ。食べられる野草を千曲川河原で取ったり。式、お楽しみ会などは大部屋で。

校医は月に1度は東京から。陸軍病院を借りて手術する子も。校医が来る日は町の人が待っていて診察をしてもらうことも。遠足は長野善光寺、松代、森村(アンズの里)など、一斉に実施する手がなく、グループに分けて。

カリエスなど結核性の子どもは栄養が必要なのだが、不足した。後々までも影響した。

現地疎開から上山田の最後までという子は小学校生活が全て疎開。

戦後が長かったので、地元の人たちは親切だった。しかし食料不足は長野でも同じで、上級生はリヤカーを引いて先生や寮母と買い出しに行くことが多かった。それを聞いた地元の婦人会などは慰問にきてくれた。

戦争が終わり、上山田の各ホテルにいた豊島区の疎開は東京に引き揚げたが、校舎を焼かれた光明学校は帰れない。

③. 学童疎開は1946年3月末を以て終了し、4月1日からは「戦災孤児等集団合宿教育所」として疎開生活を続けた。居座ること4年、疎開最長記録を作った。

勉強、治療(機能訓練)は部屋で。歩行訓練として殆ど毎日町へ。食べられる野草を千曲川河原で取ったり。式、お楽しみ会などは大部屋で。

他のホテルは戦後復興したのに、上山田ホテルは出遅れた。

若い寮母も青春期を障害児の世話に明け暮れた。光明の疎開には付き添いも何人もいた。低学年の子に付いていた人、おばあさん、お姉さん、お手伝いさんなど5、6人。

小学校、中学校を卒業すると東京に帰る。光明学校でなければ通えない重度の児童を残してだんだん少なくなる。

世田谷の焼け残った校舎には疎開しなかった先生がいて、生徒が集まってくる。校庭の整備をしたり、受け入れ準備を先生、児童、保護者でする。

戦後4年経ち1949年5月ようやく寄宿舎と教室ができて帰ってくる事ができた。

3. 「信濃路はるかー光明養護学校の学童疎開」 絶版

光明学校の学童疎開を記録する会編 代表 松本昌介

1993年3月25日 田研出版株式会社発行

学童疎開参加の教員、寮母、卒業生などで作った。

4. まとめ

疎開は繰り返すべきではない。障害児の発達にとって最も重要な少年期を大切にしたい。
他の障害 視覚、聴覚、知的障害の学校の疎開は *数人の研究者で調査続行中
光明も他の障害児学校も疎開先は殆ど学校側で探さざるを得なかった。復帰も遅かった。
東京帝室博物館(現東京国立博物館)の御物の疎開(奈良帝室博物館)は1941年8月。あ
らゆる疎開の最初 大島藤倉学園(知的障害児収容施設)は施設を軍に渡すことになり、1
944年8月山梨県清里清泉寮に疎開
寒さと飢えで10名死亡 清里念場原の開拓民共同墓地に慰霊碑がある。(オルゴール館裏)



崇 全 合 校

光明学校の学童疎開

2012年12月1日

国立オリンピック記念青少年センター

光明創立80周年記念講演会

竹下忠彦

東京市立光明学校の誕生

1932(昭和7)年4月～

- 小学校に類する各種学校として設立認可される(1932(昭和7)年4月)
 - 場所: 東京市麻布区本村町
 - 児童募集(第3学年まで)入学許可児童34名
 - 入学式: 5月21日、開校: 6月1日
 - 初代校長: 結城捨次郎
-

世田谷区松原(現在地)に新校舎完成

1939(昭和14年)11月

- 1939(昭和14)年11月、世田谷の新校舎で、授業開始する。
- 麻布校舎は分教場になる。



光明学校から光明国民学校へ

1942(昭和17)年4月

- 1942(昭和17)年4月:「東京市光明国民学校」、「東京市立光明国民学校麻布分教場」となる。
 - 4月、世田谷区への管理に移る。
 - 5月、寄宿舎完成。
 - 11月、松本保平第3代校長に就任。
-

東京都による縁故疎開の「奨励」

1944(昭和19)年3月10日

- 東京都、1944(昭和19)年3月10日、「学童疎開奨励ニ関スル件」(通牒)
 - (1) 学校長に保護者にたいし縁故を頼って児童を地方に疎開させるよう奨励させる。
 - (2) 養護学園などの施設を利用し一部児童の疎開を実施する。
 - (3) 疎開は準備ができしだい休暇中であっても早急におこなう。
-

戦時疎開学園

「学童疎開奨励ニ関スル件」もう一つの疎開施策

1944(昭和19)年4月～

- (1) 都立養護学園・臨海学園・林間学校・区教育会所有施設などを転用し、合宿による国民学校教育を実施する。
- (2) 縁故疎開先がなく、疎開を急ぐ事情がある国民学校初等科第三学年以上の希望者を収容する。
- (3) 同一校で編成し、「集団生活ニ適サザル疾病、異常等アル者」を除外する。
- (4) 実施機関は1944年4月から1カ年とする。
- (5) 生活費(食費・燃料費)は月額20円～25円とし、保護者が負担する。
- (6) 保護者の面会は特別の場合以外は認めない。
- (7) 園長・副園長はそれぞれ当該区国民学校長・訓導が兼務し、一学級一人の訓導あるいは助教を配する。養護訓導あるいは養護婦(看護婦)を一人、児童20人～30人に寮母一人を配する。

東京都における学童集団疎開の具体化

(1944年7月～8月)

- 「学童疎開促進要綱」(1944年6月30日閣議決定)、「帝都学童疎開実施細目」(1944年7月10日防空総本部決定)に基づき具体化。
 - 1944年9月25日現在、東京都区部の児童(3年生以上)の234000人が集団疎開に参加した。
-

光明国民学校の「現地疎開」

1944(昭和19)年8月～

- 光明国民学校は、区部(世田谷区、麻布区)にあるにも関わらず、学童集団疎開の対象にならなかった。
 - 松本校長は、1944年8月「現地疎開」を実施を判断。麻布の分校は閉鎖し、世田谷の本校に「現地疎開」する。「現地疎開」とは学童疎開の特殊形態(竹下)
 - 52名の児童と教職員が「現地疎開」。残りの52名は通学した。(1944年10月「光明通信」より)
 - 寄宿舍に寮母が採用される。児童と教職員は寄宿舍と治療室に泊まり込む。
-

現地疎開の様子

- 校庭に防空壕が造られ、空襲警報が鳴る度に、教員は子どもをだきかかえて避難した。
 - 2時間授業をして、10時半には下校。
 - 食糧確保のため校庭に畑をつくり野菜をつくった。
 - 校庭に山羊小屋をつくり、山羊を飼った。山羊の乳をカリエスの児童に飲ませた。
-

1945年3月10日、東京大空襲

- 「現地疎開」をしていた光明の児童、教職員は羽根木公園の上空が真っ赤になるのを目撃する。
 - 松本校長は、光明も疎開しなければ危険と判断する。
 - しかし、東京都も世田谷区も光明学校の疎開先探しには動かなかった。
-

長野県上山田温泉に集団疎開受け入れ先が見つかる(1945年3月)

- 1945年3月末、単身長野県に乗り込んだ松本校長は、長野県更級郡上山田村の「上山田ホテル」の借り上げに成功する。
- 受け入れてくれたのは、上山田村の村長で、上山田ホテルの主人の若林恒正氏。



光明学校・学童集団疎開スタート

1945(昭和20)年5月15日～

- 1945(昭和20)年5月15日、長野県上山田温泉(上山田ホテル)に全校疎開する。
 - 参加人員:児童50数名、教職員15～16名、付き添い人4～5名(「信濃路はるか」より)。
 - 上山田ホテルを全館借り切る。池袋第二国民学校の児童80名が再疎開したあとに入る。
 - 5月25日、世田谷本校の校舎、一部を残し、焼失。麻布分校は全焼。(児童の死者はなし。)
-

光明学校の「学童集団疎開」の特徴

- ①疎開期間が、1945(昭和20)年5月15日から1949(昭和24)年5月28日と、一般の国民学校より長い期間「学童集団疎開」を余儀なくされた。
 - ②初等科1年から高等科2年まで全学年が疎開の対象になった。(高等科の児童も勤労働員の対象にならなかった。)
 - ③都や世田谷区が動かず、学校独自に動いて疎開先を探した。
 - ④疎開中、児童の死者はなかった。
-

一般国民学校の学童疎開の終了

1946(昭和21)年3月31日

- 1946年3月31日までに一般国民学校の学童集団疎開は終了した。
 - 校舎を焼失し、代替のきかない障害児学校が引き揚げが不可能だった。
 - 東京では、東京都立ろう学校、東京ろうあ学校、光明国民学校など。
-

光明学校は「戦災孤児等集団合宿教育所」となり (1946(昭和21)年4月1日～)、疎開継続する。

- 1946(昭和21)年4月1日から、「戦災孤児等集団合宿教育所」になる。
 - この時点で、「学童疎開(政府政策)」は終了するが、1949(昭和24)年5月28日の東京引き揚げまで、集団合宿教育所として存続する。
 - 世田谷本校では、焼け残った校舎で、昭和21～22年ころから授業を再開していた。麻布の分校は全焼し、使用不能に。廃校になる。
 - 1947年4月、義務教育6・3制施行に伴い、都立光明小・中学校になる。
-

1949(昭和24)年5月28日、疎開の終了 (東京に引き揚げる)。

- 東京都、教育庁、文部省への陳情。
 - 1948(昭和23)年8月、校舎の新築予算決定。
 - 1949(昭和24)年3月、新校舎上棟。
 - 1949(昭和24)年4月、新寮舎工事竣工。
 - 1949(昭和24)年5月28日、上山田温泉から東京に引き揚げる。一行11名。
-

新生・東京都立光明小・中学校の誕生 1949(昭和24)年6月1日

- 1949年5月28日、引き揚げ。同日から新寮舎での生活に入る。
 - 6月1日、開寮式挙行。授業開始。
 - 7月20日、PTA結成会。
 - 9月、生徒会結成。
 - 10月5日、新寮舎落成記念式。
-

参考文献

- 「信濃路はるか」・田研出版・1993年・松本昌介編集
 - 「学童集団疎開史」・大月書店・1998年・逸見勝亮著
 - 「語り継ぐ学童疎開」・大空社・1995年・全国疎開学童連絡協議会編
-